

川上哲治氏 通算2000安打達成記念絵皿

野球殿堂博物館では、2016年夏、川上哲治氏(1965年野球殿堂入り、熊本県出身、日本プロ野球OBクラブ初代会長)のご遺族より、川上氏関連資料31点をご寄贈いただきました。

当館ではこれを記念して、2016年11月15日(火)～17年1月15日(日)の期間、熊本応援企画「川上哲治 特別展」を開催しました。現役時代の永久欠番「16」や監督時代「77」の巨人軍ユニホーム、監督時代の9年連続日本一のメンバーによるサインパネル、数々のトロフィー、ペナント等の資料に加え、当館で過去にご寄贈いただいていた赤バットやペナント類も併せて展示し、打者としても、監督としても、比類なき記録を残し、戦前戦後の球界に大きな足跡を残した川上氏の功績をご紹介します。

川上氏は1938年に熊本工から投手として巨人に入団。2年目の39年から打者(一塁手)に転向、この年打率.338で首位打者となり、大打者への道を歩み始めます。戦争による43～46年途中までのブランクを乗り越え、戦後も本塁打、ヒットを量産します。“赤バット”から生まれる弾丸ライナー

のホームランが、戦後のプロ野球を大いに盛り上げました。

首位打者は5回('39、'41、'51、'53、'55)、最多安打は6回('39、'41、'47、'53、'55、'56)、本塁打王は2回('40、'48)獲得しており、戦前、戦後を代表する大打者で、「打撃の神様」とも称されました。

1956年5月31日、川上選手は中日戦で中山俊丈投手より安打を放ち、NPB史上初の通算2000安打を達成しました。この絵皿は直径約40cm、セントラル野球連盟から贈られた記念品で、川上氏が最後までお手元で飾っていたことです。先の特別展でも展示し、現在もプロ野球の歴史コーナーで引き続き展示中です。ぜひご覧ください。

学芸員 関口貴広

